

職員による自己評価

A環境面

- ・人員数は、「上期が足りていないと感じた」との声があった。
- ・バリアフリー化の配慮ができていないに「はい」が1票しかなかった。
- ・研修も定期的に実施されている。

B児童への支援内容

- ・PDCA サイクルは児発管を中心になされている。
- ・支援に関する項目は、肯定的な回答が多いが、アセスメントツールにまだまだ課題がある。

C関係機関との連携

- ・概ね連携が取れてはいる。
- ・協議会及び担当者会議への参加はできている。
- ・医療機関や保育所との連携が不足に感じている。

D保護者への説明責任・信頼関係

日々の連絡は、送迎時や連絡帳にて実施出来ている。

E非常対応

- ・月に一度の避難訓練の実施が出来ている。

保護者による評価

A環境面

- ・スペースや配置に関しては、概ね良い評価を頂いている一方で、バリアフリー化に関して、「どちらともいえない」という評価が他よりも多かった。

B児童への支援内容

- ・放課後等デイサービス計画に関しては、概ね良い評価を頂いている一方で、活動プログラムの固定に関して、「どちらともいえない」という評価が多かった。」

C事業所からの情報発信

- ・情報発信に関しては、概ね良い評価を頂いている一方で、物足りなさを感じる意見がある

D非常対応

避難訓練の定期実施や連絡帳での周知は出来ている。それ以外の面はもう少し情報提供が必要だと

事業所内での分析

【共通点】

事業所側が「送迎時や連絡帳で実施できている」としている点に対し、保護者側からも「情報発信について概ね良い評価」が得られており、日常的な接触頻度と情報共有については、強固な信頼関係が構築されていることが分かります。

月1回の避難訓練という実績が、保護者側にも「非常時対応への一定の安心感」として正しく伝わっています。法定遵守以上の継続性が評価の土台となっています。

児発管を中心としたPDCA サイクルや個別支援計画に対し、双方が「概ね良い」という認識で一致しています。事業所の支援方針が保護者に適切に理解・受容されている状態と言えます。

【相違点】

支援内容について、職員側は個別支援計画に基づいた着実なPDCA サイクルに手応えを感じていますが、保護者側からは「活動プログラムが固定化されている」という懸念に近い声が上がっています。職員側が持つ「より専門的でありたい」という高い問題意識が、保護者側にはまだ「目に見える付加価値」として伝わっていない現状があります。

分析・検討してみても…

事業所の強み

ご家庭との信頼関係

現状に妥協しないスタッフ

安心・安全の文化

根拠に基づいた支援の実践

誠実で透明性の高い運営

事業所の改善点

環境のわかりやすさ

活動プログラムの多様化

専門機関とのチーム支援

客観的なアセスメント

人員配置の最適化

専門性の向上

事業所の改善への取り組み

従来のルーティンに加え、季節行事や新しいレクリエーション、選択制のワークショップを定期的に導入する。

「なぜこの活動を行うのか」という専門的な意図を、掲示物や SNS 等で保護者の皆様に分かりやすく発信する。

学校、医療機関、保育所等との情報共有会議をこれまで以上に積極的に実施し、一貫性のある支援体制を構築する。

地域自立支援協議会等への参画を通じ、最新の療育情報の獲得と地域ネットワークの強化を図る。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

日々の連絡や避難訓練など、「安心・安全」への評価をいただけたことは、スタッフ一同大きな励みです。私たちは、お子様の「大切な時間と未来」をお預かりしています。ご家庭と共に悩み、喜びを分かち合える事業所として認めていただけたことは、私たちの最大の誇りです。

一方で、私たちは現状に満足していません。「もっと環境を整えられないか」「専門機関と連携を深められないか」と、常に自らへ厳しい課題を課しています。この「現状に甘んじない危機感」こそがプロとしての誠実さだと信じ、皆様の「安心」をさらなる「お子様の成長」へと繋げるため、歩み続けます。

事業所名 クリームソーダ uni

担当者 塩崎 拓也